

◎ インターンシップガイダンス(事前学習)の主な内容

インターンシップ実習参加に向けて、必要なスキルや考え方を学びます。

- 目的意識の明確化
- 自己PRの作成
- ビジネスマナー
- 目標設定
- 業界研究

◎ 参加学生の声

2016年2月、ガンバ大阪の新ホームスタジアム「市立吹田サッカースタジアム」が開場。それに伴い、本学のインターンシップ「新スタジアム運営プロジェクト」がスタートしました。具体的な業務内容は、スタジアム内でのチケット確認と案内。事前に決まっていたのはこれだけで、立ち位置や案内の中身といった業務の進め方は自分たちが考えマニュアル化しました。私が担当しているマニュアル班の仕事は前例がなく、これが完成という基準もありません。試行錯誤の連続で、結果が出ず悔し涙を流したこともあります。それだけ私も皆真剣なのです。スタジアムではお客様目線の対応を常に心掛けています。お客様にとって、スタッフも印象に残るスタジアムにしたいと思っています。



【実習先】株式会社ガンバ大阪
経営学部 マーケティング学科 2年生(参加時) 田中 瑞希さん



大学に入学して、何か始めたいと思っていました。1年生のうちに自分の課題を見つけたいという思いから、追大実践型インターンシップであるキャッチアップでの実習に応募。実習の中心は、キャッチアップが運営する地域情報サイトへの掲載許可を取るために、茨木市中のお店へ営業にまわるというものでした。実習中に3人のインターン生で2000件の掲載目標を達成でき、社員の方からも高く評価していただきました。また、朝礼で急にテーマを振られ、即座に話をするということを毎日行ったことから、受け答えの対応力は自分でも実感するくらい成長しました。インターンシップを通じて、考えたことを実際に行動に移すことができるようになったので、これからも色々なことにチャレンジしていきます。

【実習先】株式会社キャッチアップ
心理学部 心理学科 1年生(参加時) 瀬々 健咲さん

夏期休暇を有意義に使うと、1年次から参加できるインターンシップに参加。図書館でのイベント企画・運営を経験しました。インターンシップ期間中、ツアーで使えるような案を毎日1つ出していました。中には思い付かない日もありましたが、諦めずに提案したことが面白いと言われてもらえ、実際に採用されました。一度行き詰まっても無理だと諦めずに考え続ければ、良いアイデアが浮かぶことを経験しました。新聞やラジオなどのメディアに取り上げてもらうことが多く、プレッシャーに押しつぶされそうになることもありました。無事に本番を成功させることができ良かったです。今後、大学で学ぶ中で、諦めずに努力した経験を活かしていきたいです。

【実習先】伊丹市立図書館ことば蔵
心理学部 心理学科 1年生(参加時)

尾野 はな子さん ※写真左

私は昔から大勢の前に出ることや、人と話すことが苦手でした。さまざまな方と交流することでそれを克服したいという思いから、このインターンシップに臨みました。実習先の図書館は「公園のような図書館」がコンセプト。企画の一つとして追手門学院大学で作家・宮本輝の縁の場所を巡る「青が散る」ツアーを考え、記者会見やラジオ収録等の宣伝からツアー運営までを行いました。記者会見では思ったことが言えず苦労しましたが、同じ失敗をしないよう、積極的に人前で話すことを心がけるようになりました。実習を経て、コミュニケーション能力を身につけることができました。社会に出てからも役立つスキルを身につけられたと思います。

【実習先】伊丹市立図書館ことば蔵
国際教養学部 国際教養学科 3年生(参加時)

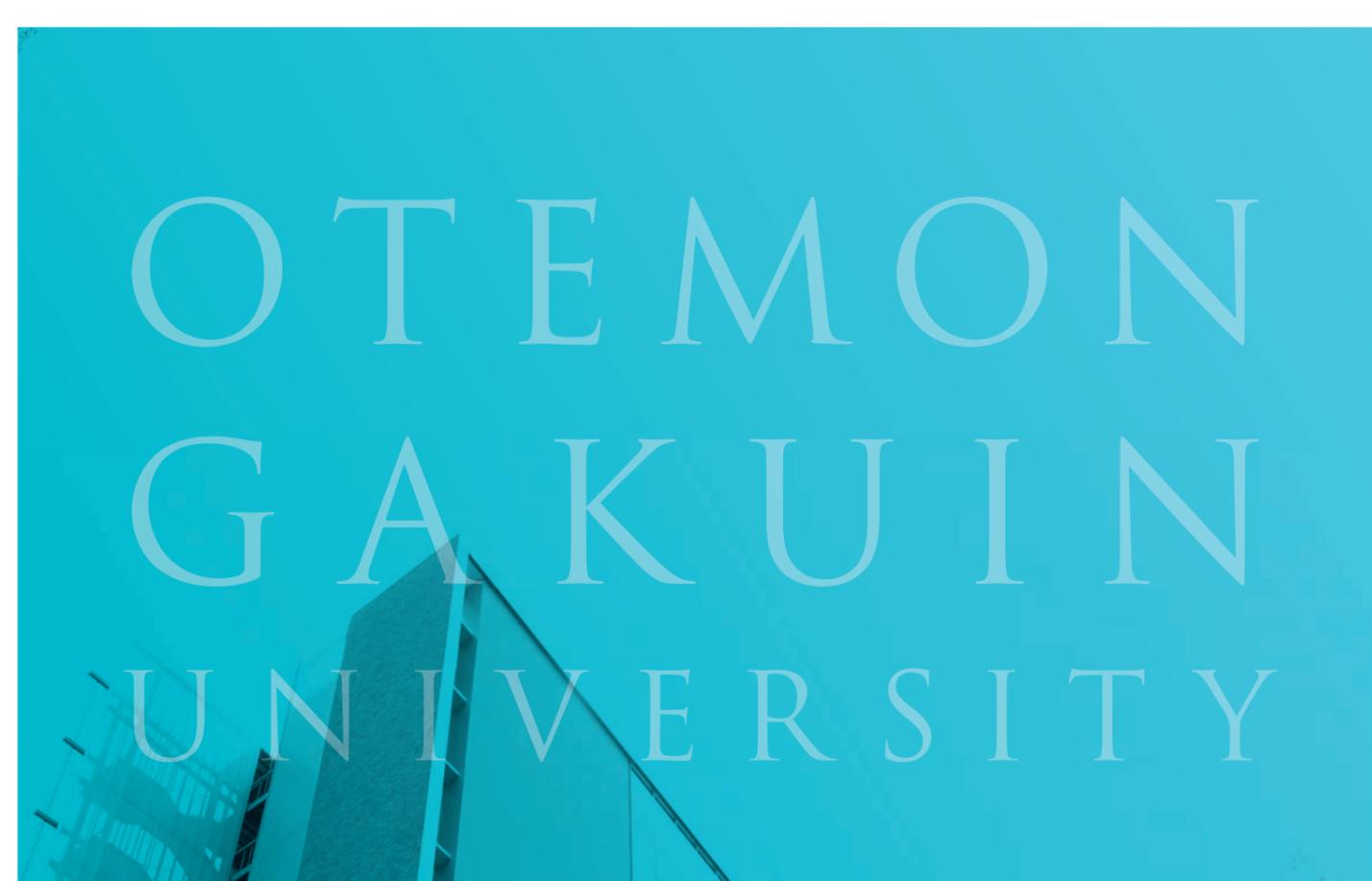
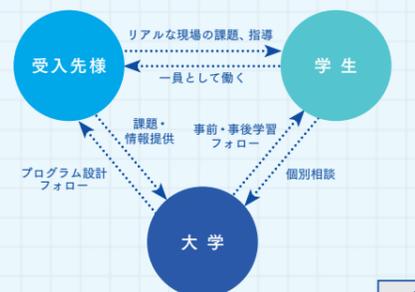
大屋 友香さん ※写真右



Check it! 追大実践型インターンシップの取り組み

追大実践型インターンシップとは…

受入先様の“リアルな課題”に取り組む実践型のインターンシップです。新たな事業を仕掛けたいけれど手が回らない、社員の人材育成力を高めたい、チャレンジし続ける社風を強化したい、採用につなげたい…など、受入先様が抱える課題の解決にインターン生を活用してください。学生は社会で求められる力を養う事ができ、受入先様にとっては自社の課題解決につながる、双方にとってメリットのあるプログラムを設計いたします。



インターンシップ
受入のお願い



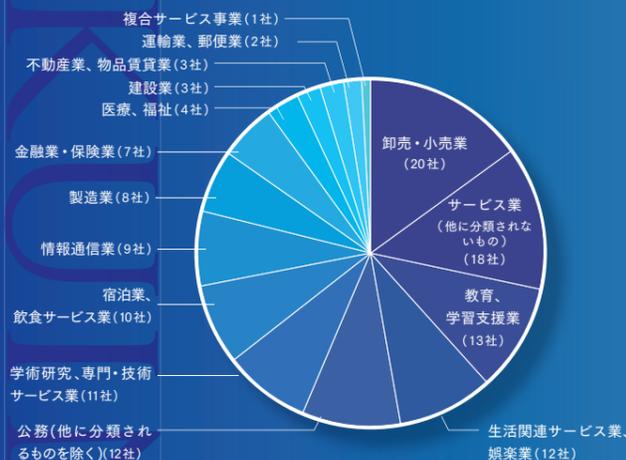
追手門学院大学では、2000年度から経営学部において正規の授業としてインターンシップをスタートしました。2001年度には全学部の3年生を対象に実施し、2015年度からは全学年を対象としています。導入以来、10年以上の実績を有しており、この間多くの事業所のご協力をいただいております。

2016年度夏期は247名の学生を実習の場に送り出しました。さらに、冬期・春期のインターンシッププログラムを開発し、より多くの学生に参加を促していきます。

今後も産業界のニーズに対応した人材育成のコア・プログラムとして、インターンシップの新たな可能性を模索し、学生の指導と教育により一層力を注いでまいります。

2016年度実績

受入事業所数 総数 133社
[産業分類別]



インターンシップ参加者数 総数 247名

学部	学科	参加学生数				合計
		1年	2年	3年	4年	
経済学部	経済学科	5	5	34	0	44
	ヒューマンエコノミー学科	0	0	23	0	23
経営学部	マーケティング学科	6	3	39	0	48
	経営学科	7	0	16	0	23
心理学部	心理学科	13	3	31	0	47
社会学部	社会学科	9	5	17	0	31
国際教養学部	アジア学科	0	0	3	0	3
	国際教養学科	0	0	24	0	24
地域創造学部	地域創造学科	3	1	0	0	4
合計		43	17	187	0	247

◎ インターンシップ受入の流れ

STEP 01 [受入先様]	【受入表明】 受入に関する基本情報(事業所概要、研修内容、条件等)を本学にご登録お願い申し上げます。 →「 受入回答書 」ご返送
STEP 02 [本学]	【学生募集・事前指導】 受入先様から頂いた情報をガイダンス等で公開・PRします。 またガイダンスで、職業意識、ビジネスマナー等、実習に必要なスキル・知識を習得させます。参加態度・意欲等総合的に判断した上で、実習先マッチングを行い、受入先様へ派遣予定をお知らせします。
STEP 03 [受入先様]	【受入の検討・決定】 本学からの派遣予定学生情報をご検討頂き、ご承諾を頂きました場合は、マッチング成立となります。受入先様で選考される場合は、必要手続きのご指示をお願い申し上げます。
STEP 04 [本学]	【受入に係る手続き】 マッチング成立後、実習に入る前に、必要事項の確認、覚書・誓約書等の手続きを行います。実習開始までに、学生からは電話連絡・事前訪問等をさせていただきます。
STEP 05 [受入先様]	【実習】 実習に入って頂き、学生の実習日誌・実習レポート作成等を含め、ご指導・ご協力をお願い申し上げます。実習終了後には実習修了書(評価表)の作成をお願い申し上げます。
STEP 06 [本学]	【事後ガイダンス】 学生に向けて事後ガイダンスを実施します。実習を振り返り、学び・気づきを今後の学生生活にどう反映していくかを考えます。
STEP 07 [受入先様・本学]	【実習報告会の実施】 大学にて実習報告会を実施します。受入先様にもご出席いただけましたら幸いです。

◎ 受入事業所様の声

短い期間ですが、来て頂いたおかげで、新人も“下に指示をする”という仕事が出来、新人により責任感が出来たかと思えます。社内に活性出来てよかったです。ありがとうございました。(広告代理業)

貴大学の学生は、まじめで学生らしい態度で課題に取り組み積極性もあり、利用者からとても評判が良く安心して取り組むことが出来うれしく思っております。(公共サービス業)

礼儀礼節をわきまえた非常に良いインターンシップ学生を受け入れることが出来ました。事前指導等をして頂いた賜かと存じます。毎年ありがとうございます。(卸売業)

